



バンコク便り

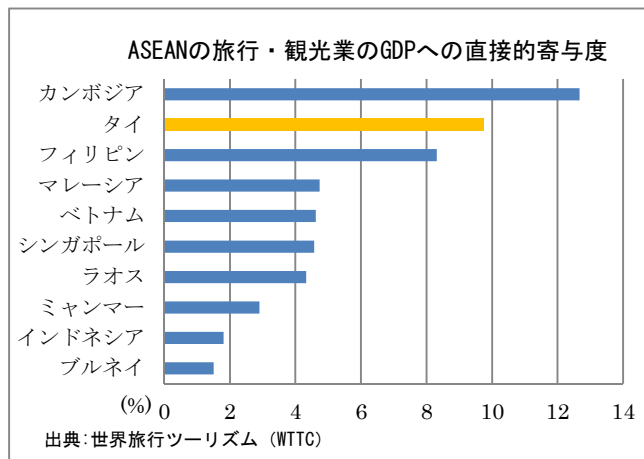


1. はじめに

タイの正月ソンクラーンでは各地で水かけ祭りが行われました。タイ人、タイ在住の外国人、旅行者等多くの人々が盛大に新年を祝い、一年で一番暑い時期に相応しいイベントとなりました。5月上旬にあるワチラロンコン国王の戴冠式前後は王宮・エメラルド寺院の休館が発表されています。G.W 中に訪タイされる方は観光施設の営業日等をご確認ください。

2. 当地ビジネス情報 (観光大国タイについて)

タイの観光産業はGDP全体の約10%を占め、ASEAN諸国の中でもカンボジアに次いで2番目に多い数値となっています。2014年はクーデターの影響もあり観光客は減少しましたが、その後は右肩上がりに増加中であり、観光国としての人気が高まり続けています。日本政府観光局（JNTO）によると、2017年の世界各国・地域への外国人訪問者数ランキングでタイが3,538万人で10位(日本は12位)となり、2019年には4,000万人を越えると予想されています。



そんな中、日系ホテルのタイへの投資も増えております。ホテルオークラグループではバンコクの日本人が多く住むトンロー地区にタイ2軒目となるホテルをオープンし、2021年には日系製造業が多く進出しているタイ東部チョンブリー県（東部経済回廊（EEC）のうちの一つの県）でも3軒目となるホテル建設を計画しています。その他、西日本鉄道、JR九州グループなどもタイでのホテル経営の進出を発表しています。日系以外でも外資系の有名ホテルが続々と進出してきており、高級ホテル市場は競争がさらに激しくなると予想されます。

タイには消費を促すような大型複合施設や高級リゾートも多く、観光地としても非常に魅力的ですが、数百円程度で買えるお土産屋や美味しい屋台、美しい自然等もあり、バラエティーに富んでいることが世界中の人々から観光地として選ばれている理由の一つだと強く感じます。

3. 現地トピックス (ソンクラーンについて)

冒頭にも述べましたソンクラーン期間中、タイ政府観光庁によると今年はタイ国内外から230万人以上の観光客がソンクラーン祭りに参加し、約200億バーツ（約700億円）の観光関連収益が予想されました。

バンコクの繁華街や商業施設でもソンクラーン中のイベントを開催するため特設ステージ設けたり、街中でも水鉄砲にゴーグルと完全防備した方をたくさん見受けられました。私はイベントには参加しませんが、ちょっと油断していたらシーロー（軽トラ版タクシー）で移動中にバケツで水をかけられてしまいました。

バンコクではソンクラーンも終わり、またいつもと変わらない様子に戻っていますが、「水に濡れて盛り上がりたい！！」という方は来年の4月こそ、ぜひ当地にお出かけください。



ソンクラーン中の繁華街